

令和 3年 業種別署別労働災害発生状況(10月末累計)

別紙 1

沖縄労働局

業 種	年・署別・局計等		令和3年(10月末累計)						令和2年(10月末累計)						局計令和2年比較	
			那覇	沖縄	名護	宮古	八重山	局 計	那覇	沖縄	名護	宮古	八重山	局 計	増減数(人)	増減率(%)
製 造 業			(2) 85	42	10	8	6	(2) 151	76	49	9	3	1	138	13	9.4
食 料 品 製 造 業			53	25	8	7	2	95	50	31	6	2	1	90	5	5.6
鉱 業							1	1						0	1	-
建 設 業			(1) 69	49	25	(1) 5	(2) 8	(4) 156	(3) 77	(2) 32	(1) 18	6	2	(6) 135	21	15.6
土 木 工 事 業			(1) 12	5	5	(1) 2		(2) 24	(1) 13	7	(1) 5	1		(2) 26	▽ 2	▽ 7.7
建 築 工 事 業			49	41	14	2	(2) 6	(2) 112	(2) 64	(2) 25	9	5	1	(4) 104	8	7.7
交 通 運 輸 事 業			11	5		1	1	18	14	3	1			18	0	0.0
陸 上 貨 物 運 送 事 業			57	11	1	1	3	73	56	15	1		4	76	▽ 3	▽ 3.9
港 湾 荷 役 業			5		(1) 1			(1) 6	3					3	3	100.0
林 業								0			2			2	▽ 2	▽ 100.0
農 業 ・ 畜 産 ・ 水 産 業			2	3	3	1	3	12	5	5		1	6	17	▽ 5	▽ 29.4
第 三 次 産 業 (運 輸 を 除 く)			(2) 344	(1) 270	84	39	41	(3) 778	(1) 298	172	40	22	24	(1) 556	222	39.9
商 業			103	53	13	3	8	180	85	32	7	5	8	137	43	31.4
小 売 業			59	41	12	3	8	123	52	22	5	3	5	87	36	41.4
接 客 娛 楽 業			29	41	22	8	13	113	(1) 45	24	14	2	8	(1) 93	20	21.5
旅 館 ・ ホ テ ル			14	12	10	2	7	45	10	13	7	1	4	35	10	28.6
飲 食 店			13	20	7	3	5	48	(1) 25	9	3		3	(1) 40	8	20.0
保 健 衛 生 業			(1) 133	112	37	24	15	(1) 321	89	57	12	8	5	171	150	87.7
社 会 福 祉 施 設			(1) 78	60	26	24	13	(1) 201	67	48	10	7	5	137	64	46.7
ビ ル メ ン テ ナ ン ス 業			26	10	7			43	26	11		4		41	2	4.9
そ の 他 の 業 種			(1) 53	(1) 54	5	4	5	(2) 121	53	48	7	3	3	114	7	6.1
全 産 業			(5) 573	(1) 380	(1) 124	(1) 55	(2) 63	(10) 1,195	(4) 529	(2) 276	(1) 71	(0) 32	(0) 37	(7) 945	250	26.5

- (注) 1. 労働者死傷病報告により作成したもの。
2. 被災者数の枠の左側()は死亡者数で内数。
3. 「▽」は減少を示す。

4. 交通運輸事業は、鉄道・軌道・水運・航空業、道路旅客運送業を示す。
5. 陸上貨物運送事業は、道路貨物運送業、その他の運輸交通業及び港湾荷役業を除く貨物取扱業を示す。
6. その他の業種は、金融広告業、映画・演劇業、通信業、教育研究、清掃・と畜(ヒルメン除く)、官公署、その他の事業を示す。

令和3年死亡災害発生状況(10月末現在)

沖縄労働局

番号	所轄署	事故の型	起因物	業種別	発生時期	年齢	労働者数 (規模別)	発 生 状 況
1	那覇	墜落・転落	クレーン	その他の金属製品製造業	2月下旬	60歳台以上	50～99	天井クレーンの整備及び点検作業において、地上約7mの高さのガーダからコンクリート床に墜落したものの。
2	那覇	墜落・転落	トラック	その他の廃棄物処理業	2月中旬	50歳台	100～299	ごみ収集車の後方右側ステップに乗車していたところ、右折した際にバランスを崩し転落したものの。
3	宮古	激突され	建設用機械等 (掘削用機械)	その他の土木工事業	4月中旬	60歳台以上	1～9	擁壁の石積作業において、被災者が擁壁頂端部より作業箇所の確認作業を行っていたところ、旋回したドラグショベルの後端部に接触し、擁壁から転落したものの。
4	八重山	高温・低温の物との接触	高温・低温環境	鉄骨・鉄筋コンクリート造家 屋建築工事業	5月中旬	10歳台	10～29	建物の基礎型枠解体作業中に体調を崩し、休憩後に救急搬送され、熱中症と診断された。
5	那覇	その他	その他の起因物	社会福祉施設	3月下旬	40歳台	1～9	新型コロナウイルス患によるもの。
6	名護	崩壊・倒壊	その他の仮設物、 建築物、構築物等	港湾荷役業	5月下旬	60歳台以上	1～9	同僚と2名で倉庫の鉄扉を閉めていた際に、扉が倒れ下敷きとなった。
7	那覇	激突	締固め用機械 (ローラー)	その他の建設業	6月下旬	50歳台	10～29	被災者がローラーを運転し締固め作業を行っていた際に、ローラーを後退したところ、切梁が後頭部に激突した。
8	八重山	高温・低温の物との接触	高温・低温環境	鉄骨・鉄筋コンクリート造家 屋建築工事業	7月上旬	50歳台	1～9	建物の基礎のコンクリート打設補助作業後、昼休憩中に体調が悪化して救急搬送され、熱中症と診断された。
9	沖縄	激突され	建築物・構築物	警備業	7月中旬	60歳台以上	100～299	ふ頭のゲートにおいて、門扉中央付近で被災者が倒れているところを発見された。
10	那覇	爆発	炉、窯	クリーニング業	10月中旬	50歳台	50～99	焼却炉内で爆発が発生したことにより、焼却炉の扉が開き、当該扉が被災者に激突した。

※労働者死傷病報告による。統計情報は今後の調査により修正される場合があります。

令和3年小売業における労働災害分析及び対策について

別紙3

業 種	災害の特徴/型別（上位3つ）	災害の特徴/年齢別（上位3つ）	転倒災害の年齢別（上位3つ）	重点対策
小売業	123人中 1 転倒29人(24%) 2 無理な動作19人(15%)（うち腰痛11人） 3 切れ・こすれ(14人)(11%)	123人中 1 60代以上 27人(22%) 2 50代 25人(20%) 3 20代 22人(18%)	転倒29人中 1 60代以上 15人(52%) 2 50代 5人(17%) 3 40代 4人(14%)	1 50歳以上の災害が42%を占める→エイジフレンドリー対策の徹底が必要 2 転倒災害が24%を占める→転倒防止対策の徹底が必要 3 腰痛11人→腰痛予防対策が必要 4 危険性又は有害性等の調査及びその結果に基づく必要な措置の徹底（リスクアセスメント）が必要

(※) 令和3年労働災害発生状況（10月末累計）から分析したもの